(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11)特許出願公表番号

特表平6-502660

第3部門第2区分

(43)公表日 平成6年(1994)3月24日

(51) Int.Cl.5

識別記号 庁内整理番号

A61K 7/00

C 7252-4C

W 7252-4C

7/06

8615-4C

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求(全 7 頁)

(21)出願番号 特額平5-503326

(86) (22)出願日

平成4年(1992)7月30日

(85)翻訳文提出日

平成5年(1993)3月31日

(86)国際出願番号

PCT/FR92/00746

(87)国際公開番号

WO93/02656

(87)国際公開日

平成5年(1993)2月18日

(31)優先権主張番号 91/09824

(32)優先日

1991年8月1日

(33)優先権主張国

フランス (FR)

(81)指定国

EP(AT, BE, CH, DE,

DK, ES, FR, GB, GR, IT, LU, MC, N

L, SE), AU. CA. JP. US

(71)出願人 ロレアル

FI

フランス国エフ - 75008 パリ, リユ

ロワイヤル, 14

(72)発明者 デュピフ,クロード

フランス国エフ - 78150 ル - シ

ェスネイ、リュ エドモン - ロスタ

ン, 9

カウウェ, ダニエル (72)発明者

フランス国エフ - 75011 パリ, リュ

ドゥ シャロンヌ、53

(74)代理人 弁理士 浅村 皓 (外3名)

(54)【発明の名称】 セラミドおよび/又はグリコセラミドによるカチオン分散剤

(57) 【要約】

1) R1はC14-C20アルキルを示し、R2は水素、(グリ コシル) "、(ガラクトシル) "又はスルホガラクトシルを 示して、nは1~4の値でmは1~8の値であり、Rs はC」s-Czs炭化水素基又は天然のセラミドおよび/又 はグリコセラミドの場合はCιs-C₁s α-ヒドロキシ アルキル基を示す式(I)の天然又は合成のセラミド又 はグルコセラミド又は天然又は合成のセラミドおよび/ 又はグリコセラミドの混合物を1つ、2)Xがアニオンで a)R。、R。およびR。はCi-Ciアルキルを示しRiは C22アルキルを示すか、又はb)R.およびRsはC1-C. を示し、(i)ReおよびRrはCro-Crrルキルを示す か、(ii)R。はC。zアルキルを示し、R,はペンジルを示 すか、又はc)R₁はC₁-C₁アルキルを示し、R₂は(ア ルキルおよび/又はアルケニル)アミドエチルを示し、 R₄およびR₇はC₁₁-C₁₁アルキルおよび/又はアルケ ニルで2位を置換される4、5-ジヒドロイミダゾルを 示す式(Ⅱ)の化合物を少くともカチオン分散剤。

カ 求 の 範 囲

1. 水性媒質中に、

1) 次式:

(式中、

4

 R_1 は C_{11} – C_{10} 的 節 飲 由来の飽和又は不飽和の、直鎖、又は分枝鎖のアルキル基を示し、この 蓋は飽和又は不飽和の C_{11} – C_{10} 間 筋酸によってエステル化された α 位のヒドロキシル 蓋又は ω 位のヒドロキシル 蓋によって 昼換されてよく、 R_1 は水素又は

(グルコシル) 。、 - (ガラクトシル) 。又はスルホガラクトシル基を示し、

ここで、

nは1から4の整数であり、

mは1から8の整数であり、

R。 は α 位が飽和又は不飽和の C_{14} – C_{24} 俊化水素基であり、1 つ又はいくつかの C_{1} – C_{14} アルキル基で 健挽されてよく、 天然のセラミド又はグリセラミドの 場合、 R, はヒドロキシル基が C_{14} – C_{26} α – ヒドロキシ酸で任意にエステル化される C_{14} – C_{24} α – ヒドロキシアルキル基を示す。)

アルケニル基はCiューCicあり、

R。 とR・ は窒素と結合して、 C : i = C : i アルキルおよび/又はアルケニル基で 2 位を産換された 4・5 - ジヒドロイミダゾル異項環を形成する。)

少くともしつのカチオン界面活性剤 を含むことを特徴とする髪や肌の手入れや保険のための カチオン分散剤。

- 2. 式(I)のセラミドおよび/又はグリコセラミドと式(II)の界面活性剤の重量比は2以下であることを特徴とする、請求項Ⅰ記載の分散剤。
- 3. 式 (II) において、X は塩素又は CH。OSO』 - 基を示し、R。はメチル基を示すこと を特徴とする、請求項 1 又は 2 に配載の分散剤。
- 4. 式(I)のセラミドおよび/又はグリコセラミ ド化合物又はその混合物は、

R、は水素を示し、

R。は飽和直鎖Cis炭化水素基を示す)

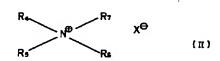
b) 式(l)の化合物(但し、R」は脂肪酸由来の 飽和又は不飽和アルキル基を示し、

R. はガラクトシル又はスルホガラクトシルを示し、 および

R. は-CH=CH-(CH:),-CH, 舊を示す)

の少くとも1つの天然又は合成のセラミド又はグリコセラミド、又は天然又は合成のセラミドおよび/又はグリコセラミドの混合物、および、

2) 式:



(式中、Xは陰イオンを示し:

- a) R.、R. およびR. は同一か又は異なり、C. - C. アルキル基を示し、R. はC. *** アルキル基を 示すか、又は、
- b) R。およびR」はC」 C。アルキル葉で同一か 又は異なり、および
 - (i) R。およびR、はC」。- C」。アルキル基であるが、但しR。とR、の炭素数の合計が20以上であり、このアルキル基はエステル差および/又はアミド基で中断されるでもよく、又は、
 - (ii) R n 基はベンジル蓋を示し、R u は C n n r ル キル蓋を示すか、又は、
- c) R。は C; ~ C。 アルキル基を示し、 R。は (アルキルおよび/又はアルケニル) アミ ドエチル基を示し、ここで、アルキルおよび/又は

から成る群から選ぶことを特徴とする、請求項 1 ~ 3 の いずれか | 項に記載の分散剤。

5. 式(Ⅱ)のカチオン界面活性剤は、

a) ベヘニルトリメチルアンモニウム クロライド 又はジメチルジステアリルアンモニウム クロライド のようなテトラアルキルアンモニウムハライド、

b) 式:

(式中、Rは獣腎筋筋酸由来のC12-C21アルケニルおよび/又はアルキル基の混合基を示す。) の第四級アンモニウム塩、

c) ステアルアミドプロピルジメチル(ミリスチル アセテート)アンモニウム クロライド

から成る群から選択することを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の分散剤。

6. 式 (I) の化合物は分散期の全量に対して
0.01~15重量%の歳度で存在し、式 (II) のカチオン界面活性剤は 0.01~15重量%の歳度で存在す

ることを特徴とする、請求項 I ~ 5 のいずれか I 項に記 能の分散制。

2

- 7. 化粧品として受容可能な水性蓋剤中に、請求項 1~6のいずれかに定義した分散剤を少くとも1つ含む ことを特徴とする髪や肌の手入れ用の化粧品組成物。
- 8. 組成物の全量に対して、式(I)のセラミドおよび/又はグリコセラミドを 0. 0 0 5 ~ 1 5 重量% および式(II)のカチオン界面活性料を 0. 0 1 ~ 1 5 重量% の濃度で含有することを特徴とする、請求項 7 に記載の組成物。
- 9. 幾分異厚な波刺、ゲル剤、クリーム、噴出式泡 剤、又はスプレー剤の形で供することを特徴とする、鑽 求項7又は8に記載の組成物。
- 10. 粘度調節剤を組成物の全量に対して、 1.5 重量 %に及ぶまでの割合で追加的に含有することを特徴とす る、請求項7~9のいずれか1項に記載の組成物。
- 11. 超成物の安定性に不利な影響を与えないアオニン、非イオン又はカチオン重合体、四級化又は非四級化蛋白質又はシリコンから選択する髪や肌の調節剤を組成物の全量に対して 0.05~6 重量%の割合で含有することを特徴とする、請求項 7~10のいずれか 1項に記載の組成物。
- 12. 書料、保存料、金属イオン封銀剤、フォーム安定化剤、プロペラント、染料、酸性剤又は塩基性剤又は 化粧品に一般的に使用されている他の補佐剤を追加的に

ort an 25

セラミドおよび/又はグリコセラミドによるカチオン 分散剤

本発明は毛髪又は肌の手入れをするためのカチオン分 飲剤、それを含む化粧品組成物およびそれらの美容上の 利用法に関する。

毛髪は大気中の作用物質やパーマネントウェーブ、ストレートパーマ、毛染又はブリーチのような種々の髪の手人れにより、程度の差はあるが損傷したり弱くなることはよく知られている。こうなると、髪のもつれを解いたりスタイリングするのがむずかしくなる。更に感触もざらついてくる。

撃のもつれを解きやすくし、柔かい感触にするために、カチオン界面活性剤が一般的に用いられている。これらの界面活性剤は残全ながら、髪の張りを失くし、見た目が聞っぱくなる欠点がある。手入れする髪が細ければ細いほど、この現象が著しくなる。

セラミドは既に毛髪組成物として提案されている。水 性雄質には不容であるために、セラミドは今まで除イオ ンおよび/又は非イオン界面活性剤に基づく処方に用い られてきた。

本出願人はセラミドに基づくエマルジョン又は溶液は 髪のもつれを解く性質に劣っていることを見出した。 含有することを特殊とする、請求項7~(1のいずれか 1項に記載の組成物。

- 13. シャンプーの前後に、毛髪又はブリーチの前後に、パーマネント又はストレートパーマの前後に、又は遅元と酸化の二段階の中間に用いるシャンプー又は要リンス毛髪生成物として、シャンプー後に用いるリンス不用毛髪保護生成物として、セット又はブロー用の乾燥ローションとして、又は肌を保護する生成物としての請求項7~12のいずれかに記載の組成物の利用法。
- 14. 随意、後でリンスする請求項7~13のいずれかに記載の組成物を利用することから成る髪又は肌の美容的な手入れの方法。

しかし、本出願人は特定のカチオン界面活性剤と組み合わせたセラミドおよびグリコセラミドによる水性の分散剤を用いると、髪の根元から先まで滑らかに包みながら、髪の張りをなくしたり、贈っぽくさせずにほつれを 解く性質を充分に改善することを見出した。

本発明によると、この分散剤はまた髪のぬれやすさを 減じるので、乾くのもそれだけ早い。

本発明のカチオン分散剤は特に損傷した髪や細い髪の 手入れに適しているし、とても安定である。

本出順人はまた、本発明のカチオン分散剤が肌についても充分に満足のいく化粧上の性質を示し、肌を手入れ したり保護するのに用いることができることを認めた。

本発明の主題は特定のカチオン界面活性剤と結合させたセラミドおよび/又はグリコセラミドに基づくカチオンAmpara 4

別の主題はこれらの分散剤を含み、髪や肌の手入れを するための化粧品組成物に関する。

髪や肌の見た目の美しさをよくする効果のある手入れ 剤を「化粧用トリートメント剤」と呼ぶ。

別の主題は本発明の組成物を用いる美容上の手入れの 方法に関する。

本発明の他の主題は以下の記述や実施例により明白になるであろう。

本発明のカチオン分散剤は水性媒質中に

1) 式:

(式中、

40

R:はC:4-C:e脂肪酸由来の飽和又は不飽和、直鎖、 又は分枝鎖のアルキル基を示し、この基は飽和又は不 飽和のC:4-C:e脂肪酸によってエステル化されたα 位のヒドロキシル基又はω位のヒドロキシル基で置換 され得るし、R:は水煮又は(グリコシル)。、一 (ガラクトシル)。又はスルホガラクトシル基を示し、 ここで

nは1から4の整数であり、

mは1から8の整数であり、

R,はα位が飽和又は不飽和のC;-C;e炭化水素基であり、1つ又はいくつかのC;-C;でルキル基で置換され、天然のセラミド又はグリセラミドの場合、R,は又、ヒドロキシ基がC;-C;- α-ヒドロキシ酸で任意にエステル化されるC;--C;- α-ヒドロキシアルキル基を示す。)

の少くとも1つの天然又は合成のセラミド又はグリコセラミド、又は天然又は合成のセラミドおよび/又はグリコセラミドの混合物、

および

2) 式:

の少くともしつのカチオン界面活性剤 を含むことを特徴とする。

上記の式(II)中、アニオンXは塩素又は CH,OS, を示すのがよく、R。はメチルを示すの -がよい。

セラミドおよび/又はグリコセラミド対カチオン界面 活性網の重量比は2以下がよい。

式(I)のセラミドおよび/又はグリコセラミドは単独又は混合物で用いる。これらは豚皮、牛の脳、卵、赤血球、植物を起源とする天然の抽出物から製造する。これらについては特開昭 6 1 ~ 2 6 0 . 0 0 8 号および 6 2 ~ 1 2 0 . 3 0 8 号明細書およびヨーロッパ特許第 0 . 2 7 8 . 5 0 5 号明細書に記載がある。

上記式(1)の化合物の中で、以下のようなものを用いるのがよい。即ち:

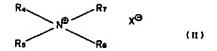
R,はCııーCı₂脂肪酸由来の飽和又は不飽和アルキルを示し、

R』は水素を示し、

R』は飽和療状Cia店を示す、

例えば、

N-リノレオイル ジヒドロスフィンゴシン N-オレオイル ジヒドロスフィンゴシン N-パルミトイル ジヒドロスフィンゴシン N-ステアロイル ジヒドロスフィンゴシン N-ベヘノイル ジヒドロスフィンゴシン



(式中、Xは除イオンを示し:

- a) R。、R。およびR。は同一か又は異なり、C。 - C。アルキル基を示し、R。はCェアルキル基を 示すか、
- b) R。およびR。はC: C。アルキル蓋で同一か 又は異なり、および、
 - (i) R。およびR、の炭素数の合計が20かそれ 以上であるという条件付きで、同一又は異なる、 C1・- C1・アルキル基で、このアルキル基はエス テル基および/又はアミド基で中断されるか又は
 - (ii) R, 基はペンジル差であり、R。はC:27ルキル基を示すか、又は
- c) R』はC,一C.アルキル基を示し、

R。は(アルキルおよび/又はアルケニル)アミドエチル基を示し、ここでアルキルおよびアルケニル基は C : *- C *: であり、

のような化合物又はこれらの化合物の混合物。

以下のようなものでもよい。即ち:

R: は脂肪酸由来の飽和又は不飽和アルキル基を示し、 R: はガラクトシル又はスルフォガラクトシルを示し て

R. は一CH=CH-(CH.)..-CH, を示す化 合物。

Waitaki International Biosciences 社製のGlycocer という商品名で販売されているこれらの化合物の混合物 から成る生成物も挙げることができる。

本発明の式(Ⅱ)のカチオン界面活性剤は、

- 8) ベヘニルトリメチルアンモニウムクロライド又はジメチルジステアリルアンモニウムクロライドのようなテトラアルキルアンモニウムハライド、
- b) 式(II):

(式中、RはRewo社製のRewquat (W75、 W75PG、W90、W90DPG、W1599、

特表平6-502660(5)

W 7 5 H)という商品名で優売されている生成物のような耿昭昭訪敵由来の C 、。 - C にアルケニルおよび/ 又はアルキル基の混合基を示す。)

の第四級アンモニウム塩、

c) マリンクロット社製のCeraphy! 70という名で収 売されている生成物のようなステアルアミドプロピル シメチル (ミリスチルアセテート) アンモニウムクロ ライド

から成る群から遊ぶのがよい。

本発明のカチオン分散剤はカチオン界面活性剤とセラミドののり状物質を作り、この配合物を約80 $\mathbb C$ の温度で酸解してから、Ultra turraxを用いて激しく攪拌しながら、温水(80-90 $\mathbb C$)を加えて製造できる。

本発明の分散剤で、式(I)のセラミドおよび/又は グリコセラミド化合物の濃度は分散剤の全量に対して、 $0.01\sim15$ 質量%、好ましくは $0.05\sim10$ 重量 %であり、式(Π)のカチオン界面活性剤の濃度は分散 剤の全量に対して $0.01\sim15$ 重量%、好ましくは $0.05\sim10$ 重量%である。

本発明によるカチオン分散剤は特にシャンプー剤として、シャンプーの前後、毛製又はプリーチの前後、パーマネント又はストレートパーマの前後、又は酸化および 還元の二段階の中間に用いる要リンス生成物として、シャンプー後に用いるリンス不用のヘアーケア製品として、整型又はプロー用乾燥ローションとして、スキンケア組

は四級化又は非四級化蛋白質およびシリコンのような、 毛髪や肌の美容上の性質を改善する効果をもつ他の薬剤 を任意に追加的に加えることができる。

カチオン、非イオン又はアニオン重合体、四級化又は 非四級化蛋白質およびシリコンは本発明の化粧品組成物 中に組成物の全重量に対して 0.05~8%、好ましく は 0.1~3%の割合で用いることができる。

本発明の組成物は又、目的とする用途に応じて、香料、保存料、金属イオン封鎖剤、フォーム安定化剤、プロペラント、染料、酸性剤又は塩基性剤および他の補佐剤のように、化粧品に通常使われている種々の補佐剤を加えることができる。

本発明の別の主題は後で任意にリンスをしてもよい本 発明による組成物を利用する毛髪や肌の美容上の手入れ 方法から成る。

以下の実施例は本発明を説明するもので制限するものではない。

実施例1

次の組成を持つ分散剤を開製する。

~ et ·

(式中、

成物として用いるための毛髪や肌の手入れ用の化粧品組 成物に抑えることができる。

これらの化粧品組成物は式(I)のセラミドおよび/ 又はグリコセラミドを組成物の全量に対して 0.05 ~15 重量%、好ましくは 0.01~10重量%の割合 で、式(II)のカチオン界面活性剤を組成物の全量に対 して 0.01~15 重量%、好ましくは 0.05~10 重量%の割合で含有する。

本発明の化粧品組成物は一般的にはpH2~9で、更に 詳しくはpH3~7である。

これらの組成物は、幾分濃厚な液剤、ゲル剤、クリーム、噴出式泡剤又はスプレー剤の形で供される。

この組成物はまた、上記した分散初の他に、電解質、ハイドロトロピック解又は増粘剤のような粘度調節剤を含有できる。それらの化合物を挙げると、塩化ナトリウム、キシレンスルフォン酸ナトリウム、カルボキシメチルセルロースやヒドロキシプロピルセルロースのようなセルロース誘導体、キサンサンガム、グアーガム、ヒドロキシプロピル化グアーガムおよびスクレログルカンがある。

これらの粘度調節剤は組成物の全重量に対して 1 5 重 量 % に及ぶ割合まで用いられるが、好ましくは 5 % 以下 である。

本発明の組成物は組成物の安定性に不利な影響を与えない限り、アニオン、非イオン又はカチオン重合体、又

 $R_a = C_{1a}H_{a}$

 $R_1 = C_1, H_2$

のN-オレオイルジビドロスフィンゴシン 2g -ジメチルジステアリルアンモニウム クロライド

2 g

一番科、保存科

連 量

-HCA 適量でpH=4にする

ー水 適量を加えて 全量100.0gとする。 このカチオン分散剤は単なるシャンプー又は毛染後の シャンプー後のぬれた髪に用いる。水ですすいだ後、ぬれた髪は全体的に滑らかで、根元から毛先まで一様に復 ける。

乾いた後は、滑らかでふんわりしていて、髪型をよい 恰好に保持できる。

実施例 2

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- 実施例1のセラミド

0.5g

- 活性分を 8 0 % 含むベヘニルトリメチルアンモニウム クロライド 活性分として 2 g

一香料、保存料

遺量

-HCL 随量でpH=4にする

- 水 適量を加えて 全量100.0gとする。 このカチオン分散剤も実施例1のようにして繋に用い ると、同様の結果が得られる。

実施例3

特表平6-502660(B)

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- 実施例1のセラミド

0.5g

- Rewo社製の、活性分を75%含むRewoquat W 75 PGという名で販売されている式(II)の第四級アンモニウム塩
 活性分として2g
- ートリエタノールアミン 適量でpH= 6 にする
- 香料、保存料

200

遺量

-水 適量を加えて 全量100.0gとする。 このカチオン分散剤はパーマネントの第一段階である 還元にかける髪に用いる。すすいだ後、パーマネントの 酸化段階を行う。実施例1で述べたように、髪がぬれて いても乾いていても、同様の利点を示す。

実施例 4

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- ジメチルジステアリルアンモニウム クロライド

0.7g

- 実施例1のセラミド

1.4g

- ステアリル アルコール

1 4 0

- セチル アルコール

1.4g

セテアリルアルコールと33モルの酸化エチレンでオ キシエチレン化したセテアリルアルコールの混合物

3.6g

- ートリエタノールアミン 適量でpH=7にする
- -水 適量を加えて 全量100.08とする。このカチオン分散制はパーマネントをかけたぬれた葉、
- ジメチルジステアリルアンモニウム クロライド

5 g

- 保存料

道 量

- 随意のもので pH = 5 にする
- -水 適量を加えて 全量100、0gとする。 このカチオン分散剤はシャンプー後のぬれた髪に用い る。リンスせずに乾燥してスタイリングをする。髪は一 様に滑らかでふんわりし、根元から毛先まで容易に依け る。

実施例7

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- Waitaki International Biosciences 社製のGlycocer という名で販売されている、活性分を42%含むグリ コセラミド 活性分として0.1g
- 活性分を 3 0 % 含むAqualon 社製のLexein QX 3000という名で販売されている、ココイルアミドプロピルジメチルアミンで四級化されたコラーゲン水解物

活性分として 0.3g

- 一 活性分を 7 5 % 含む Rewo社製の Rewquat 〒75PG という名で販売されている式 (皿) の第四級アンモニウム塩活性分として 0 . 3 g
 - ヒドロキシエチルセルロース

0.4

一保存料

直底

- -随意のもので pH=5にする

-水 を適量加えて 全量100、0gとする。

即ち酸化段階級に用いる。水ですすいだ後は髪がぬれて いても乾いていても、実施例1と同じ利点を示す。

実施例 5

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- 実施例1のセラミド

2 g

- マリンクロット社製のCeraphyl 70 という名前で販売 されているステアルアミドプロピルジメチル(ミリス チルアセテート)アンモニウム クロライド 2g
- 随意のものでpH= 5にする
- -水 適量加えて 全量100.0gとする。 このカチオン分散剤は脱色をした壁に用いる。すすい だ後は、壁がぬれていても乾いていても実施例1と同じ 利点を示す。

実施例 6

次の組成を持つ分散剤を腐穀する。.

- 式 :

(式中、

R . = R . . R . .

R . = C . . H . .)

のN-ベヘノイルジヒドロスフィンゴシン

0.5g

この分散剤は洗ってぬれた髪で、場合によってはローラーに悪いた髪に用いる。リンスせずに乾かす。髪は実施例 6 の場合と同じ利点を示す。

実施例8

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- 実施例1のセラミド

- 0.5g
- ジメチルジステアリルアンモニウム クロライド

5 g

- ローン・ブーラン社製のSilbione油 47V50 という名で 販売されているポリジメチルシロキサン 0.1g
- 保存料

遊童

- 随重のものでH= 5 にする。
- -水 を適量加えて 全量100.08とする。 このカチオン分散剤は清潔なぬれた髪に用いる。水で すすいだ後、髪がぬれていても乾いていても、実施例1 と同じ利点を示す。

実施例 9

次の組成を持つ分散剤を調製する。

- 式:

(式中、

R . = C . . H . .

特表平6-502660(7)

 $R_1 = C_1 H_1$ のN-ベヘノイルジヒドロスフィンゴシン

0. 0 1 g

- 活性分を 7 5 % 含むRewo社製のRewoquat W75PGの名で 販売されている式(皿)の第四級アンモニウム塩

活性分として 0.5g

- 保存料

直量

- 適量で pH=5にする -HC &
- 全量 1 0 0 . 0 gとする。 -水 を適量を加えて、 このカチオン分散剤はシャンプー後のぬれた髪に用い る。リンスせずに乾燥し、スタイリングする。髪は実施 例8と同じ利点を示す。

実施例10

浴用又はシャワー用の次の組成物を調製する。

- Waitaki International Biosciences 社製のGlycocer という名で販売されている活性分を42%含むグリコ セラミド 括性分として 0 . 2 g
- -ベヘニルトリメチルアンモニウム クロライド

0.63g

- Marchon 社製のEmpicol ESB/3Fl という名で販売され ているオキシエチレン硫酸塩化したラウリルアルコー ルのナトリウム塩 30.0g
- ~活性分を 9 0 % 含むChem Y社製のAkypo RLM 100 とい う名で販売されている、酸化エチレン10モルでポリ オキシエチレン化したカルボン酸のエーテル

	国 除 詞 3	E 報告	disconnect op	diameter San		
			PCT/FR 9			
A. 0.4	SIFTCATION OF SURVECT MATTER					
According to	A61K7/06; A61K7/48 Intermediated Parasa Classification (IPC) or so be	المراز المدادة المعالمة الم	ion and IPC			
	DE SEARCIGED					
IPC 5	AS 1K	pà circoliteration a tang	ula)			
	the starting of the displace desires as the					
Drawer &c	n in se executed during the ignoracional burch (som	o of deep know such, whe	ws propinskie, merch	THE SHALL		
	THAVALOR BE OT CERTIFICO ENTE					
Contrad.	Classes of decrement, with indicates, where	opposition of the re	leves process	Referent to claim Ho.		
E	EP.A.O 446 094 (L*OREAL) 11 September 1891			1-3, 5-10, 12-14		
	*claims; table 2, examples 25-26; examples 47-49; exam					
^	EP.A.O 278 505 (ESTEE LAUDE 17 August 1988 cited in the application *see the whole document*	R INC.)		1-16		
^	EP.A.O 260 697 (LION CORPOR 23 March 1908 *Claims; page 13. paragraph page 14 lines 51-53:*			1-14		
^	EP.A.O 420 722 (L'OREAL) 3 April 1991 *Claims: page 4 lines 46-58	•		1-14		
	dermotes are finted in the mentionation of Box C		- barres			
. Into a	riprio d'atal farageste ACAT DE Primi del de la CATATA DE LA CATATA			The same party		
to be of positively and region to the state of the state						
1. Motions which may drove death as proof polarity or related and polarity death of the polarity of the polari						
The second process of the second between the second process of the						
Description of	the terestation of the terestational speech					
	22 October 1992 (22.10.92) Does all smilling of the International Search regard 22 October 1992 (22.10.92) 20 November 1992 (20.11.92)					
N prof 0-46	neg address of the ISA/	Anthonous utilizar				
Europea Feminie No.	.					
	LIO (manual sheet) (July 1992)	Tatephone Ma.				

活性分として 2.3g

- セピック社製のAmonyl 675 SB という名で仮売されて いる、活性分を50%含む(ココイルアミド プロピ ル) ヒドロキシプロピルスルホベタイン

活性分として4.8g

一香料

直直

一 水 を適量加えて、 全員100.0gとする。 俗用又はシャワー用のこのシャンプー剤はとても柔か い泡が立つので、肌触りがよい。

FR 9200746 SA 63236

	P-15	Τ.	*******	~
EP-A-0146094	11-09-91	FR-A-	2658829	30-08-91
EP-A-0278506	17-08-88	DE-A- JP-A-	3871974 63270617	23-07-92 00-11-88
EP-A-0260697	23-03-88	JP-A- JP-A-	1025712 63183518	27-01-89 28-07-88
EP-A-0420722	03-04-91	FR-A- CA-A- JP-A-	2652002 2025790 3193754	22-03-91 22-03-91 23-08-91